

平成 19 年度障害者自立支援調査研究プロジェクト 事業実施報告概要

事業名	精神障害者の自立支援のためのセルフマネジメントプログラム（Chronic Disease Self-Management Program, CDSMP）開発事業
事業目的	平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月まで、熊本大学医学部附属病院、くわみず病院、菊陽病院精神科外来へ通院する精神障害者 31 名に CDSMP を実施し、介入前、終了時、3 か月後に、日常生活制限度、健康状態、疲労・痛み、セルフ・マネジメント行動、自己効力感によって比較した。また介入前の状態を介入群と対照群 34 名の結果と比較し、精神障害者の自立支援においてこのプログラムの有用性を検討した。
事業概要	平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月までの間、熊本大学医学部附属病院、くわみず病院、菊陽病院の精神科外来へ通院し、調査および CDSMP への参加に同意が得られた精神障害者 31 名（CDSMP 実施群、統合失調症・認知症をのぞく 18-65 歳の気分障害、不安障害、適応障害、身体表現性障害等）と調査に同意は得られたが CDSMP へ参加しない精神障害者 34 名（対照群、18-65 歳で診断は CDSMP 実施群と同じ）を対象とした。CDSMP 実施群には、CDSMP を 1 週間に 1 回 3 時間、計 6 週間、18 時間提供し、これを 1 クールとした。1 クール 6 回の参加者は同じ対象者で、1 クールにつき 10 名までとし、6 クール実施した。CDSMP はリーダー資格を取得しているリーダー 2 名、うち 1 名は精神科看護師としての経験 5 年以上の者が行なう。CDSMP 実施群 6 クール 31 名、対照群 34 名（CDSMP を実施しないが、CDSMP 実施時期にあわせ、10 名ずつ 6 クール 60 名の調査対象者を募り）に調査を行った。調査は実施前には CDSMP 実施前、6 回終了 1 週間後、終了後、3 ヶ月後に郵送法にて実施した。質問紙は、自己効力感、日常生活機能評価用紙、病気に関するセルフ・マネジメント行動、病状（SOC, HADS）、再入院日数・入院にかかるコスト記載等の対象者特性質問紙を用いた。さらに CDSMP 実施群には、研究者による参加観察を行い、介入効果の質的分析を行う。そして 2 群間で、自己効力感、日常生活機能、病気に関するセルフ・マネジメント、病状、再入院日数、入院に関するコスト削減を比較する。調査は日本慢性疾患セルフマネジメント協会および熊本大学医学薬学研究部、くわみず病院、菊陽病院の倫理委員会で承認を得た後に実施し、調査対象者には調査の目的、趣旨を説明し、個人・施設が特定されないこと、また結果を公表していくがその場合も

	個人や施設が特定されないことを伝え同意を得た。
事業実施結果 及び効果	介入群は 39.87 歳、対照群は 36.24 歳、入院回数は介入群に多く、初発年齢も介入群が有意に低かった。また介入群は有意に若かった。また介入群の方がひきこもりが強く運動が少なかった。全般的健康状態、症状、日常生活動作、日常生活において、終了後と退院 3 カ月後では有意な変化はみられなかったが、改善がみられていた。これらの結果から精神障害者への CDSMP は、患者の運動や日常生活を改善する効果がみられていたが、自己効力感やセルフ・マネジメント行動の有意な改善には至らなかった。
事業主体	NPO 法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会 東京都港区高輪 3-22-12 全社連研修センターオフィス 2 階